

屋根型（欧州型）の道づくり勉強会 ～走行性・作業性がよく、森に帰りたくなる道づくり～

<概 要>

県南地域では、近年の国内外の木材需要の高まり等により皆伐が増加していますが、県南広域本部では、皆伐後に経営放棄をせずに適切に更新する「持続可能な林業」を実践するために、「林業従事者の労働環境の改善」と、林業の「総合的な低コスト化」が必要であると考える中で、昨年度から「走行性・作業性がよく、維持管理もしやすく、環境にも配慮した屋根型（欧州型）の道づくり」に注目し、日本において先行して「屋根型の道づくり」に取り組んでいる岐阜県や長崎県等の事例を勉強してきました。

その結果、御賛同いただいた八代市、相良村及び球磨村において、本年度から屋根型の道づくりの取組みが始まりましたが、その理論と技術を、行政や林業事業者だけでなく、設計業者・建設業者等の道づくり関係者全体が、正しく理解した上で実践するために、昨年度に引き続き勉強会を開催しました。

平成31年1月24日開催した勉強会では、講師に岐阜県フォレスタ協会の中谷会長を招聘し、約40名の参加者と、午前中は八代市の現地で検討会を、午後からは県南広域本部会議室で屋内検討会を開催しました。

参加者からは「屋根型と通常型の擦り付けはどのようにするのか?」「日本に導入する際の注意点は?」などの質問があり、関係市村や講師からの回答で検討会を行いました。

今回の勉強会では、完成した屋根型(欧州型)の道をお披露目することはできませんでしたが、関係市村では、今年度の実績を踏まえて、来年度も継続して作設予定ですので、今後も持続可能な林業に向けて「森づくりは道づくり」の気持ちで、関係者の皆さんと知恵を出し合いながら勉強し、情報発信していきたいと思っております。



現地検討会の様子



屋内検討会の様子

屋根型（欧州型）の道づくりとは・・・

林業の先進地である欧州では、路面中央部を高くし、山側に側溝を設置した「屋根型構造の道」が一般的であり、その道づくりの理念は、将来にわたって森づくりをするための道として、「人も機械も安全に走行でき」、「どこでも作業ができ」、「維持管理もしやすく」、「環境にも配慮」することとであり、路面排水機能や走行性・作業性が高く、維持管理も含め総合的な低コスト化を重視している。

日本と欧州では、水のマネジメントや土の性質に対する考え方が異なるため、現在の日本の道づくりの規定では取り組みにくいのが現状。しかし、屋根型（欧州型）の道づくりの有用性を認めた北海道、岐阜県、長崎県等の一部の事業者が、先進的に取り組んでいる。